

不祥事根絶のための行動計画

【不祥事根絶に向けた三永小学校の決意】(行動基準)

- 1 私たちは、遵法、公正を守りぬきます。
- 2 私たちは、常識ある行動・行為をとります。
- 3 私たちは、自己研鑽に努め、真の教育を追求していきます。

東広島市立三永小学校
校長 若狭 弘子

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員としての規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○研修時には、不祥事に対する危機感や当事者意識は感じられるが、日常の言動を常に意識していくことが必要である。 ○多忙な時期にルール等があいまいになる傾向がある。 ○社会人としての常識(マナー)について、学ぶ機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己のこととして考え、行動できる姿勢をもつ。 ○常に社会人としての認識と公教育に携わる職責の重さを自覚する。 ○身近な事例や日常的に気を付けていること等を取り上げ、研修内容が日常の行動に結び付いていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○当事者意識を高めるため自己の振り返りや今後の行動について考える時間を設定する。 ○主体的な研修となるよう、グループ協議、ロールプレイ等、協議したり発表したりして内容を工夫する。 ○社会人としての常識(マナー)について学ぶ機会を設定する。 ○新聞記事等の不祥事情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月の不祥事防止委員会で、研修内容を点検をする。 ○不祥事防止チェックリストを年3回以上実施する。
組織として相互に支え合う教職員集団の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○不祥事防止委員会を通じた組織的な工夫・改善が必要である。 ○教職員間で気軽に相談し合える職員室文化を創造する。 ○見通しを持って組織的に業務を処理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導上の諸問題等を一人で抱え込むことなく、組織的な取り組みをする。また、必要に応じて関係機関と連携をする。 ○気持ちのよいあいさつ・声かけを通して、教職員相互の親和的人間関係を深める。 ○業務改善を心がけて校務を処理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導をはじめとする指導上の諸課題について、教職員間で情報共有を図り、組織的な体制により解決を図る。 ○気持ちのよい「あいさつ」が行き交う学校環境を、教職員から発信する。 ○担当業務や役割を責任もって処理するとともに、組織力によって効率よく処理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○週に1回、教職員全体により、指導上の諸課題について、状況を把握する。 ○月に1回、不祥事防止委員会において、情報交換と取組の進捗状況を確認する。
早期対応・早期解決のための相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知はしているが、活用は十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知を定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談室での定期相談日を保護者や児童に学校だより等で周知するとともに、校舎内全ての教室にポスターを掲示し、担当の教職員を明示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員を対象とした面談を年3回実施する。 ○年3回、児童・保護者対象にアンケートを実施する。

